

開館時間 9:00~17:00(入館は16:30まで)
休館日 原則として、月曜日、祝日、年末年始(12月28日~1月4日)
プラネタリウム休演日 10月15日(水)、16日(木)
宇宙劇場休演日 9月9日(火)、10日(水)

入場料

区分 / 金額	個人	団体 (20人以上)	
展示室	おとな	400円	320円
	こども (小・中学生、高校生)	100円	80円
プラネタリウム	おとな	400円	320円
	こども (小・中学生、高校生)	200円	160円
全天周映画	おとな	400円	320円
	こども (小・中学生、高校生)	200円	160円
プラネタリウム + 全天周映画	おとな	600円	480円
	こども (小・中学生、高校生)	300円	240円

宇宙劇場投映開始時刻

曜日 / 時刻	10:00	11:10	12:20	13:30	14:40	15:50
火~金	学習投映 (団体予約優先)	学習投映 (団体予約優先)		学習投映 (団体予約優先)	全天周映画	プラネタリウム
土・日 春・夏・冬休み	全天周映画	プラネタリウム	全天周映画	プラネタリウム	全天周映画	プラネタリウム

定員210名、各回入れ替え制。投映中の入退場はご遠慮ください。
 学習投映は団体予約優先の投映です。団体でご利用の場合は、あらかじめお電話で
 ご予約ください。
 学習投映の番組は幼児用、小学生用(低学年、4年生、高学年)、中学生用を用意
 しています。
 小・中学校及び幼稚園等の春・夏・冬休み期間中は、火~金曜日、土・日曜日と
 同じ投映スケジュールとなります。



宇宙劇場 プラネタリウム

PLANETARIUM

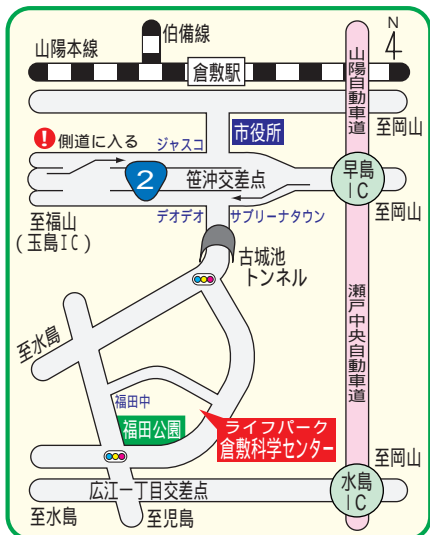
投映の話題 (今夜の星空解説含む)

てんもんだいちょう ものがたり
イヌの天文台長・チロ物語

Vol. 32 2003. 7. 11 ~ 2003. 10. 12

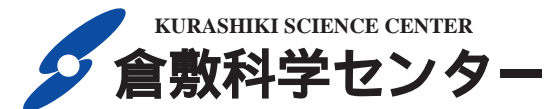
ACCESS

- J R 倉敷駅からタクシー 20分
- J R 倉敷駅からバス 25分
- 下電バス
- 『ライフパーク倉敷行』 終点下車
- 『市役所・古城池経由 J R 児島駅行』
ライフパーク倉敷入口下車
- 『市役所・古城池経由 広江団地行』
ライフパーク倉敷下車
- 『大高経由 J R 児島駅行』
福田中学校前下車 (徒歩15分)
- 国道2号線 笹沖交差点から車で15分
(古城池トンネルを抜けて最初の信号を左折)
- 瀬戸中央自動車道 水島ICから車で10分
(広江一丁目交差点を右折後、最初の信号を右折)



倉敷科学センター

〒712-8046 倉敷市福田町古新田940 ライフパーク倉敷
 TEL (086)454-0300 / FAX (086)454-0305
<http://www.city.kurashiki.okayama.jp/lifepark/ksc/>



てんもん だいちょう ものがたり イヌの天文台長・チロ物語

上映期間 / 7月11日 (金) ~ 10月12日 (日)

福島県の星仲間たちが作った白河天体観測所。彼らの天体観測のかたわらには、いつも北海道犬チロがいました。鈴の付いた赤い首輪に白いふわふわの毛。星をながめるのが大好きなチロは、12年間白河天体観測所の天文台長を務めた、星仲間たちのアイドル犬です。

チロが星空の下に駆け出すと、いつも素敵な“星の事件”がもちあがります。3年に及ぶ大隕石搜索。『チロと星を見よう』を合い言葉に数千人が集う、星のお祭り“星空への招待”。チロはその生涯の中で、星を愛する多くの人々のきずなを結んできました。

この物語は、星を通じてたくさんの人々と心を通わせたチロ。星を愛し、チロを愛した飼い主の藤井さん。そして、星仲間たちの心の交流の物語です。



“星空への招待”で開会宣言をするチロ(福島県浄土平)

原作：
星になったチロ - イヌの天文台長 -
藤井 旭 著 (ポプラ社)

制作協力：
・天体写真家 藤井 旭 さん (原作・写真)
・福島県滝根町・星の村天文台
大野 裕明 さん (取材・写真)
・広島市こども文化科学館
加藤 一孝 さん (取材・資料)
・天体写真家 渡部 剛 さん (写真)

声の出演：
田中 秀幸 (青二プロダクション)
住友 七絵 (青二プロダクション)
中井 和哉 (青二プロダクション)
増谷 康記 (青二プロダクション)
足田 由香里 (青二プロダクション)

ふじい あきら 藤井旭さん プロフィール



1941年、山口市に生まれる。
福島県の白河天体観測所を拠点に天体写真家として活躍する一方、イラストレータとしての顔も持つ。
天文解説に定評があり、雑誌等に見つかる星空案内記事は、藤井氏の寄稿によるものが多く、誰もが一度は目にして育ったというほど。また、12年間にわたる、愛犬チロと星仲間の友情を紹介した「星になったチロ(ポプラ社)」は、60万部の大ヒットを記録した。
天文解説の著書も多数。「チロの星空カレンダー12か月」(ポプラ社)、「宇宙大全」(作品社)、「星座アルバム」(誠文堂新光社)など。

しゅつげん さ しんせい 1975年に出現した「はくちょう座新星」

夜空にとつぜん輝き出す、見なれない星のことを「新星」といいます。昔の人は、なぜ星が明るく輝いたのかを理解できなかったため、新しい星が生まれたと考え、「新星」と名付けたのです。

しかし、その後の天文学の進歩により、新星は、星にたまったガスが爆発を起こし、とても暗い星が、何万倍もの明るさで輝く現象であることが分かってきました。特に、一生の最期を迎えた星が起こす大爆発は「超新星」と呼び、特別扱いしています。

新星は、年に数個ほど見つかりますが、肉眼で見えることはほとんどありません。1975年に出現した「はくちょう座新星」は、誰もがはっきり確認でき、大騒ぎになった、非常に珍しい例でした。



はくちょう座新星の明るさの変化 (大野 裕明 さん撮影)

次回のプラネタリウム新番組は10/17(金)よりスタートです。